

これまでの子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和6年(2024年)7月17日
健康福祉部



これまでの委員発言概要（進め方・枠組み関係）

令和5年度第1回子ども・子育て会議

- 県庁内で職員同士が今後の子育て政策をせめて5時以降にでも議論できるくらいの余裕を作る必要がある。幹部の方で、止めることができる事業は思い切って止めて、本当に力を入れなければいけないところに力を入れる状況作ってもらいたい。
- 人口の減っている地域の保育園は取り合いになっている。現場を見ていただきたい。

令和6年度第1回子ども・子育て会議

- こどもの発達段階に応じた支援と結婚・妊娠・出産・子育ての支援の2つのラインを想定すべきではないか。
- 県庁内での意見集約、無理やり感ないようにして。
- 市内の声ばかり聞かないで地域の格差・実情も意識して。
- この計画策定にあたっては地域に関わってもらうことが大事。
- 指標も検討されたい。また、国のこども大綱の目標が低いものがあるので、より意欲的な目標設定を検討されたい。
- この会議には肝心のこども・若者の代表がいらない。この計画策定にあたっては、こどもに意見聴取するだけでなくこどもの代表がこういう会議に出るといい。
- 支援を受けている者や支援者のうち、いきいきと子育てをしている方の例を入れるといいのではないか。
- 小さなコミュニティの場合は、関係を作って事業に横ぐしを刺せばできることが多くあることにも留意されたい。
- 子育てはまちづくりも絡む話なので、都市計画や建築環境学会の専門家にも話を聞くといい。
- 経営者の悩みも聞いていただきたい。
- 県庁内だけでなく、他の自治体の首長や人事担当部署の意見も聞いてほしい。

これまでの委員発言概要（目指すべき熊本像関係）

令和5年度第1回子ども・子育て会議

- こどもまんなか熊本の理念について、優先順位やメリハリをつけるべきではないか。
- こどもを持たない人も含めて、一人一人が子育てを支えていく、又は子育ての意識を持つ、子育ての社会化が必要。

令和6年度第1回子ども・子育て会議

- 理念のポンチ絵が子育て中の者が中心となっているが、こどもまんなかという以上は、こどもを中心に据えるべきではないか。
- こどもが熊本を一旦出てもまた戻ってきたいと思えるといい。熊本で学び育って子育てする良さが感じられるようにしてほしい。熊本ならではの施策の工夫を。
- 九州男児と言われるが、男の意識改革をしていくべき。
- 不登校が多いと聞く。こどもたちにとって今はとても生きづらい社会なのではないか。信頼に足る社会を目指していきたい。
- こどものためということを頭に置いておくのが大事。保護者まんなかではなく、こどもまんなかであると明確にして。
- こどもがキラキラ輝くことを目指すなら、保育士も保護者もわくわくどきどきできるようにしないとけない。そこが全部連動してこそ「こどもまんなか社会」といえる。

これまでの委員発言概要（総論関係）

令和5年度第1回子ども・子育て会議

- 7年間で23%減の少子化の状況を懸念。

令和6年度第1回子ども・子育て会議

- 労働環境に関する意見が多い。
- いずれこどもを持ちたい、こどもはかわいいというプラスのイメージを持ってもらうためにはこどもの頃から自分より小さなこどもと触れ合うのが大事。
- こどもまんなかというなら、保育園に遅くまで預けるときに、保護者はスタッフにお詫びするのではなくこどもにありがとうを言うのがいい。
- こどもに意見表明権があることをこどもにも大人にも周知されたい。
- こども施策に関する意思決定過程へのこども・若者の参画を進めていただきたい。
- こどもを支える人を支えるのが大事。
- こどもの最善の利益を考えるなら環境整備が大事。
- 親の学びを重視していただきたい。
- せっかく国や自治体が施策を打っていても現場に届いていないこともある。どんな施策があるかを発信するのが大事。
- 倒産が数年ぶりに全国で単月で1000件を超えた。その中には人手不足を原因とするものもあるが、TSMCの進出以来、熊本では人の取り合いになっている。職場環境づくりがいっぺんにはできないところがあるが、そうした企業も人手不足にならないように人が辞めないように少しずつ職場の環境づくりをやっていこうとしていることに理解いただきたい。
- 基本的な方針としては、こどもや若者、子育て当事者の視点を重視し、その意見を聴き、対話しながらともに進めていくという方向でお願いしたい。

これまでの委員発言概要（各論関係 1）

令和5年度第1回子ども・子育て会議

- 保育士就学資金の貸付が認定こども園等も対象であることを養成校などに説明されたい。
- 養成校が3～4年のところもある中で、保育士就学資金（2年）の期間を延ばすことを検討されたい。
- 再就職支援や就職説明会に力を入れて、想定年収の25～40%をとる有料職業紹介事業者をなるべく排除されたい。
- 自ら考え自ら行動するこどもになれるように「こども主体の保育」について義務教育課と一緒に研修をしており、今後も義務教育課と研修を行っていきたい。
- 幼保小の連携が取れていったらいい。少しでも助成があれば広がるし、子どもたちのスムーズな成長につながっていくのではないかと。教育委員会と福祉がお互いに歩み寄りという。
- こども誰でも通園制度について、産後鬱になるお母さんを一人でも救えるよう、自治体の持ち出し分が少しでも軽減されるよう、検討していききたい。
- 現場が多くある事業をどのように利用していったらいいのか、利用できるのかを知らないで、福祉や教育という部門を超えて横の連携をとって、組み立ててこどもの成長を支援するためにコーディネートする人が必要。

令和6年度第1回子ども・子育て会議

- 病気的时候は病児保育も大事だが、保護者が休めるようにして。
- こどもが病気や参観的时候に職場で父親側に対して帰らなくていいのと声をかけてもらえるようになるといい。母親の負担が減って、こどもとの関係性も改善され、父親にとっても学ぶ機会にもなり、よりよいこどもまんなかになるのではないか。
- 配置基準の見直しがあるといい。
- 出産費用は保険適用且つ出産育児一時金の差額支給の現行通りが熊本の場合が一番いい。
- いじめ、暴力、ハラスメント、貧困、ヤングケアラーなどで、声を上げられないこどもたちが安心して相談ができ、権利を侵害されて苦しんでいるときに意見を聞いてもらって救済できる仕組みを熊本県でしっかり作っていただきたい。
- こどもの成長において、0～2歳がカギであり、しっかり投資して欲しい。国のはじめの100か月育ちのプランが大事。
- 出産後のネウボラのようなものが充実すると産後うつや虐待も減るのではないか。
- 特別な配慮が必要な子を見ることになるとう人手不足になりがちであることに留意して。
- こどもにとっては母親が大事であり、母親が早く帰れる環境を作っていただきたい。
- 誰でも通園制度で母親を助きたい。
- 延長保育は1人いても保育士2人必要であることをちゃんと踏まえた施策にしてほしい。
- 幼保小連携が大事。小学校が楽しいと言ってくれる卒園生が増えることを願っている。

第2回子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和6年(2024年)9月6日
健康福祉部



第2回子ども・子育て会議委員発言概要（基本的な方針・計画の策定趣旨関係1）

- 基本的な方針案に記載の「身近な大人たち」には保護者会の後援会の保護者も位置付けてほしい。
- 基本的な方針案に記載の「ライフステージに応じた切れ目のない支援」は非常に大事と思う反面、難しさがある。
- こども時代を幸せに過ごせた人はこどもを持ちたいと思い、こども時代を不幸に過ごすと、大人になってもこどもを持ちたくないとなるのではないか。ユニセフの調査では日本は精神的幸福度がほとんど最下位に近い。こどもが幸せと思って過ごせる状況を作ることと、つらいと思って生きているこどもたちを助けられる支援を行うことが大事。基本的な方針案に記載の「こども・若者が幸せに成長できるようにする」だと、大人は「成長」してほしいと思っているとしても、こどもたちは今を生きる主体であって、こどもの今を大事にしていくことが大事なので、「こども・若者が幸せに暮らし、成長できるようにする」とするか、「今を大事にする」という言葉を入れることを検討されたい。
- 計画の策定趣旨の「キラキラ輝く」という言葉は、具体的にどういうことを言っているか掴みにくいところがあるので、「笑顔」や「幸せ」、「夢や希望を持てる状態」等、イメージを県民と共有していくのが大事。
- こどもたちがどう進んでいくべきかを自分たちで考え、自分たちで行動できるように育てていくことが「キラキラ輝く」につながるのではないか。
- 基本的な方針案に記載の「県民」という言葉は距離があるような感じがあり、「市民」という語のほうが距離が近い。
- トップダウンよりボトムアップの方が強いから、下から湧き上がるような機運を高める政策も必要。
- 基本的な方針では、「こどもまんなか」と打ち出すのだから、こどもが真ん中になんないといけない。全てのこども・若者が幸せに暮らし、成長できるようにするという方針を一番大切にしてほしいし、順番を一番前にすることでこの方針を一番大切に行っていることがこども・若者、県民にも伝わる。こどもが本当に求めているものは何かが大事。

第2回子ども・子育て会議委員発言概要（基本的な方針・計画の策定趣旨関係2）

- 基本的な方針案にこどもや若者、子育て当事者を支援する人たちを支援するという方針が入ったことはありがたい。「身近な大人たち」には家族に近い人も入るだろうから、上記の方針の次くらいに位置付けてほしい。
- 基本的な方針案で、3番目に「結婚・妊娠・出産」、4番目に「ライフステージ」とし、「関係者との連携・機運醸成」や「県民とともに未来を創る」は方法論ということで最後でいい。
- 「こどもまんなか熊本の考え方」のサイクル内で、「学力の向上」とあるが、障がいのあるこどもたちも含めた一人一人の個性に応じた学びを実現する魅力ある学校づくりの方が大事なので、「個別最適な学び」に変える方が良いのではないか。
- 「こどもまんなか熊本の考え方」で、「あらゆる立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや若者、子育て当事者の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながら様々な取組みを実施する熊本」とあるが、子育てやこどもを支援する社会的なつながりの団体を丁寧に追う観点から、こども大綱と合わせて、「家庭、学校、園、地域企業、民間団体等が、…」と書いてはどうか。
- 基本的な方針の順番の変更は、計画の策定趣旨の「安心して結婚・妊娠・出産・子育てができる」と「こども・若者がキラキラ輝く」の記載順にも関わる。大事にしたい理念を踏まえていただきたい。
- 子育てのために会社を休む方を「子持ち様」と言って、分断が生まれないようにすることも意識されたい。

第2回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係1）

- こども未来創造会議（出向く型）の内容は、素晴らしい意見や企業の取組の様子がわかるので、県民とも情報共有するといい。
- こども未来創造会議のまとめ資料に家庭科の記載があったが、教員の配置にも目配りされたい。
- 家庭科の教員不足という話もあるが、学校教育課と連携して、保育の現場で体験学習をしてほしい。生徒への良い影響があるほか、保育士不足の解消にもつながる。
- いくつかの自治体で行われている保育留学は、熊本県のこどもだけでなく日本全国のこどもを対象とすることで、熊本県のまちづくり等の地域貢献になる。
- ブライト企業の要件に子育てをしっかりとできる企業ということを入れてほしい。
- ヤングケアラーや子どもの貧困対策、障がい児支援、医療的ケア児の支援や虐待防止、社会的擁護等の福祉に関わる部分にどう対処するか、検討するかも計画に記載されたい。
- ヤングケアラー等の弱き声、小さな声も含めて耳を傾けて対話しながら進めていただきたい。
- 人材難の中で、熊本に残ってほしい、又は一遍出ても帰ってきてほしいと考えており、行政としてまちづくりをどう進めていくかも入れてほしい。
- 郷土愛を根付かせるという視点を置いてほしい。
- 土木や公共交通などの様々な部局が関与して頑張ってもらいたい。
- 県として地域格差や地域同士の連携にどう対応するかも検討するとともに、学力だけでなく人間力をどう育むかも重要視していただきたい。
- こどもや若者とともに社会をつくるという認識の下、こどもや若者が安心して意見を述べることができる場や機会をつくるとともに、意見を持つための様々な支援を行い、社会づくりに参画できる機会を保障することが重要。特に、どういう会議でどういうことが求められているのか、どう参画してほしいのか等の意見を持つための支援のほか、会議に参加するこども・若者を支えながら参画してもらうことが重要。

第2回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係2）

- 子育てや出産が大変だということばかり強調されると、若い人たちの印象もそうになっていくので、ブライト企業等のロールモデルを見える化して、大変ではない部分のアピールも同時にしておくべき。
- こども誰でも通園制度は一番人手のかかる0～2歳を対象とするので、実施する保育所をどう確保するのが重要。
- 人権教育は、学校ではされているが、就職後にハラスメントがなされる現状を踏まえて、職場環境での人権教育も大事。
- 県には、こども家庭センターの在り方についての各市町村に対する指導や、こども家庭センターに必要な社会福祉士や心理士、家庭相談員の人材確保にも努めてほしい。
- 職員が子育ての関係でお休みをすると職場で困る状況は出てくるので、職員が安心してお休みできるような支援があるといい。
- 地域のボランティアも計画に何かしら盛り込んでほしい。
- 市町村ごとの子ども・子育て会議にも県の方からフィードバックをしながら進めていくといい。
- 全ての子どもという記載がこども基本法の基本理念で出てくるが、認可保育園と認可外保育園で取扱いが違うことを踏まえ、全てのこどもという基本理念を忠実につぎ込んでほしい。
- 人材紹介会社への規制を進めてほしい。
- ダウン症のこどもへの対応等、行政の方で持っている情報を保育園にも広く展開してほしい。
- 幼稚園や保育園が特別支援に関わるこどもであることを指摘する最初のアクターであることに留意されたい。
- こどもが将来こどもを産みたい・育てたいと思える子育てをすることが大事。
- 保育士就学資金の対象となる幼稚園の種別を明確化して広報されたい。

第3回子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和6年(2024年)11月25日
健康福祉部



第3回子ども・子育て会議委員発言概要（基本的な方針・総論関係）

- 地方での人口減少対策としては、こどもたちの成長の見守りだけでなく、働く場所の創出や定住促進、こども・若者が自分の力を発揮できる体制づくりが必要。
- 国からの財源をしっかりと確保し、1つ1つの政策について具現化していくことが大事。
- 「キラキラ輝く」の意味が具体的に示されていて良い。
- 出産前から小学校までの期間に手厚い支援をすることが、一番効果が大きい。
- 計画を作ったら終わりではなく、様々な機会を捉えて、「こどもまんなか熊本」実現に向けた気運醸成を行うこと、こどもたちに広く自分のこととして考えてもらう機会をつくること、具現化していくことが必要。
- 「全ての県民にとって社会的価値が創造され」の部分は、わかりやすくなるよう工夫するといいい。
- 基本方針の中で、こども・若者、子育て当事者を支える人への支援に触れているのはありがたい。
- 財源の問題で、県内でこども・若者、子育て当事者への支援に格差が生まれないよう、県から市町村への後押しを検討して貰いたい。

第3回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係）

- 差別やいじめを受け、大人にも理解してもらえない等、困難を抱えているトランスジェンダーのこども・若者当事者に目配りできるような文言を追加するとともに、そうした当事者のニーズに応じて貰いたい。
- 切れ目ない乳幼児健診につながるような文言を追加して貰いたい。
- 人口減少地域の保育所への支援にも触れて貰いがたい。
- 親の学びの取組みを継続して貰いたい。
- 子育てへのポジティブな考え方が広がってほしい。
- 本文中で「切れ目のない支援」と「切れ目ない支援」があるので、表現を統一した方が良い。
- 若いこどもに与えるメディアの影響はすごく大きいので、その対応についても検討して貰いたい。
- こどもに関わる部署がしっかりと協力し、幼保・小・中連携を推進して貰いたい。
- 計画を通して、地域の課題を学校も一緒になって解決していこうという取組みにもつなげて貰いたい。
- アドボケイトのような専門人材を活用する等、いじめや差別を受けて苦しんでいるこども・若者の権利擁護の仕組みを具体的に検討して貰いたい。

第4回子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和7年（2025年）2月18日
健康福祉部



第4回子ども・子育て会議委員発言概要（総論関係）

- 計画の策定にあたり、県医師会や歯科医師の意見を聴いた方がよいのではないかと。
- 「特別な配慮が必要なこども」という表現について整理をしてほしい。
- こどもには、関わる人に活力を与える力があることをもっとアピールした方がよい。
- アートには、人の心や疲れを癒す力がある。こどもにオープンな美術館も増えてきているので、そういったところと連携することで、新たな発想での取組みが生まれるのではないかと。
- 計画を具現性の高いものとするため、財源の確保にもしっかりと取り組んで貰いたい。
- 計画の概要資料でわかりやすくまとまっていて良いと思う。
- 就職先となる企業が地域にないといったことも若者が地域から出て行ってしまう原因になっていると思うので、今、人口が減少している地域では、企業の誘致等について市町村を挙げて頑張っていかなければならないと思う。

第4回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係1）

- 保育士に加え、保育教諭の人材確保についても計画で触れて貰いたい。
- ブライト企業そのものの制度の充実についても計画で触れて貰いたい。
- よかボス企業の質の確保のため、認定後のフォローアップの実施等についても検討して貰いたい。
- 「愛の1・2・3運動+1（プラスワン）」を実施することにより、先生方への負担はあると思うが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して対応することにより、負担の軽減を図ることは考えられる。また、以前から行われてきた取組みであるため、計画に記載したことにより負担が増加することは無いと思う。
- 中高生に対してだけでなく、幼少期から性教育を行う必要があるのではないか。
- 不登校の生徒が学校以外にも通える居場所を整備することで、いろんなことに夢を持てる児童生徒が増えるのではないか。
- 学校に必ずしも行けないこどもたちが多様な個性を発揮して生き活きと関われるような場の整備についても前向きに検討して貰いたい。
- こどもたちが不登校になるのを防ぐため、もっと幼保等・小・中の連携に取り組んで貰いたい。
- お母さんばかりに負担が掛からないよう、こどもが病気の際にお父さんが帰りやすい職場づくりに積極的に取り組んで貰いたい。

第4回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係2）

- 不登校のこども、虐待を受けたこどもをどう支えていくかについても、計画の中で触れて貰いたい。
- 小学校・中学校でこどもが不登校になってしまう家庭は、乳幼児期に保育所等でも支援が必要であった家庭が多いのではないかと思うので、保育所等で何か課題に気づいた際は、行政の母子保健やこども家庭センター等と連携し、支援していくことが必要。
- 保健師が産婦と関わる中で、本当に産後ケアを受けて欲しいと感じる人の方が産後ケアを受けていないという現状がある。
- 保健師の訪問で産後うつの疑いがある産婦について、どこの医療機関につなげばよいか分かるようにして貰いたい。
- フリースクールにこどもが通うにあたっては、補助がないし、地域によっては利用できる施設が無い。現状でフリースクールを安易に不登校のこどもの居場所と言ってしまうとよいかという懸念がある。
- TSMCの進出を受けた、こどもたちからの「お金よりも食、田んぼが大事だ」という意見が非常に心に響いた。
- 今年から児童育成支援拠点事業を実施しており、利用者としては不登校のこどもが一番多い。様々な支援を継続するなかで、「高校に行きたい、学校でこういった勉強がしたい」といったことをつぶやいてくれるようになった。何とかやっていけそうだという手ごたえを感じるとともに地域のこどもたちを支えているという実感がある。

第4回子ども・子育て会議委員発言概要（指標関係）

- 保育教諭の数・新規登録者数・平均賃金も指標に加えて貰いたい。
- 学校が楽しいと感じるこどもの割合や、いじめが原因で自殺したこどもの数、こどもや子育て・育児に関わる人が大切にされていると思う県民の割合を数値目標に加えて貰いたい。又は、数値目標を掲げないにしろ、計画を通して、こども一人ひとりの命が大事にされていること、子育てに関わる仕事をしている人はとても大切な仕事をされているというメッセージを、様々な場で発信して貰いたい。
- こどもだけでなく若者に関する数値目標も加えて貰いたい。